

美術館・博物館 などの催し

ぐんまこどもの国児童会館 「こどもの国のお正月」

期間 1月4日(木)～8日(月)
時間 午前10時～午後4時30分
会場 ぐんまこどもの国児童会館(太田市長手町)

内容
・ペーゴマやけん玉、かるた、お手玉など昔ながらの遊びの他、家族で遊べるボードゲームなど
・獅子舞や餅つき、茶会などの日替わりイベント
・ぐんまこどもの国児童会館のマスケット「にこっとちゃん」、県のマスケット「ぐんまちゃん」との記念撮影(4日だけ)



獅子舞

入場料 無料
☎0276・25・0055
FAX 0276・25・0059

自然史博物館特別展「ぐんまの自然のいま」

期間 1月13日(土)～2月18日(日)
※月曜日(2月12日を除く)、2月13日(火)は休館
時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
会場 県立自然史博物館(富岡市上黒岩)

内容 県内の自然保護・保全に携わる団体や学校などが行っている調査・研究、活動の成果を紹介し、当館で収蔵する実物標本を活用した展示も行います



県内の自然や生態系に関する展示

観覧料 無料
※常設展は観覧料(一般1510円、大学・高校生1300円、中学生以下1100円)がかかります
☎0274・60・1200
FAX 0274・60・1250

土屋文明記念文学館企画展 「子供たちの戦争―ある少年が愛読した新聞・雑誌」*



「幼年倶楽部」15巻2号

会期 1月13日(土)～3月18日(日)
※火曜日休館
時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
会場 県立土屋文明記念文学館(高崎市保渡田町)
内容 戦中戦後の「子供雑誌」を展示します。戦争中に子供たちが手にしていた雑誌や、雑誌と子供を取り

巻く社会の状況などについて紹介します
観覧料 一般410円、大学・高校生1200円、中学生以下1100円
☎027・373・7725
FAX 027・373・7725

埋蔵文化財調査事業団最新情報展「一万年つづく粉食文化―縄文クッキーからおつきりこみまで―」



中・近世に使われていたすり鉢(上)と石臼

会期 1月14日(日)～5月13日(日)
※土曜日、祝日(2月11日、4月29日を除く)、2月12日(月)、4月30日(月)は休館
時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
会場 県埋蔵文化財調査センター(発掘情報館)(渋川市北橋町)
内容 群馬の郷土料理を象徴する「粉もん文化」について、県内遺跡出土の石臼や石臼などの粉碎具の変遷を通して、そのルーツを探ります
観覧料 無料
関連行事
○ギャラリートーク
・期日 2月4日(日)
・時間 午後1時～3時
・内容 展示作品について職員が説明します
・講師 田村博(県埋蔵文化財調査事業団職員)

・対象 高校生以上の人
・定員 100人(先着順)
・費用 無料
・申し込み方法 当日、直接会場にお越しください
☎0279・52・2513
FAX 0279・52・2904

生涯学習センター「ぐんま県民カレッジのつどい記念講演会」

期日 1月20日(土)
時間 午後1時～3時
会場 県生涯学習センター(前橋市文京町)
内容
○表彰式 ぐんま県民カレッジ在学中に奨励賞を授与します
○記念講演
・演題 どう輝いて生きるか
・講師 大宅映子(評論家)
定員 200人(先着順)
費用 無料
申し込み方法 電話、ファクスまたはEメール。住所、氏名、年代、電話番号、職業をお知らせください
申・問 ☎027・224・5700
FAX 027・221・5000
negishi-na@pref.gunma.jp



《色絵区割松梅鶴文四方入隅銚子》18世紀中期 個人蔵 ©Toyama Takayuki

館林美術館企画展示「粋な古伊万里―江戸好みのうつわデザイン」*

会期 1月20日(土)～4月8日(日)
※月曜日(2月12日を除く)、2月13日(火)は休館
時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
会場 県立館林美術館(館林市日向町)
内容 伊万里焼は江戸初期に佐賀県有田で作られるようになった初の国産磁器です。日本初公開のコレクションにより、江戸の「いき」を背景にした古伊万里の魅力をご紹介します
観覧料 一般1610円、大学・高校生1300円、中学生以下1100円
☎0276・72・8188
FAX 0276・72・8338

県民リポーターだより

館長「大きな馬」を語る
11月5日に、群馬の森にある「大きな馬」の前に大勢の人が集まりました。近代美術館のシンボルともいえる馬の彫刻像について、近代美術館の岡部館長が語るのを、私も聞きに行きました。
この像は、近代彫刻の祖・ロダンの一番弟子といわれるブールデルの作品で、記念像としては極めて大きなものだそうです。片足を上げた姿勢のバランスや、首から胸への筋肉の盛り上がり、皮膚のしわなどの表現に、ロダンの影響が見られるそうです。普段見ているだけでは気付かないことを教えてもらいました。
「大きな馬」という標記も単に
大きな像だけでなく、偉大という意味が込められているそうです。
またこの像は、ブエノスアイレスの広場にある、アルゼンチンの独立運動の立役者であるアルペール將軍の顕彰碑と同じものだそうです。馬にまたがる將軍の像が巨大な台座の上に立てられています。が、近代美術館の像は、馬だけが
金井幹子さん(前橋市)



群馬の森にある馬の記念像



左：ペンダント付トルク(金、ラピスラズリ、カーネリアン、トルコ石、ガラス) アケメネス朝ペルシア 前4世紀
右：牡牛裝飾脚杯(金) イラン北西部 前12世紀-前11世紀